

中央区協働推進会議（第11回）議事要旨

1. 日時

平成21年6月11日（木）16:00～17:30

2. 場所

中央区役所別館7階B会議室

3. 出席者

【委員】

瀧澤利行（会長）、山岸秀雄（副会長）、山井理恵、古澤悦子、安嶋潔、豊田正文、小泉典久、小池正男

【事務局】

地域振興課長、協働推進主査

（主な議題）

1. 中央区協働推進会議中間報告（案）について

〔議事の経過〕

- 1 瀧澤会長より、これまでの議論の経緯と、中央区協働推進会議中間報告（案）について説明がなされ、その後、意見交換が行われた。提出された意見をもとに、会長と事務局で修正を行って各委員に再度確認をとること、その確認された中間報告をもってパブリックコメントを経ることが了承された。委員からの主な意見等は、以下のとおりである。
- 「協働のための人材育成方法」については、リクルートも含めた広い意味での人材確保という観点でみていったほうがいい。中央区のNPO活動、市民活動をされている方々の中からこういう人たちが出てきてほしい。
 - 中間支援拠点のところで、社会福祉協議会側が総合窓口だと言った後で、「しかし…」と続くと、否定するような感じを受ける。「中間支援拠点の具体的運営にあたっては、NPOをはじめ…」というように、基本的な考え方は前段で述べ、その具体化にあたっては委託してやるのがよい、という表現にしたほうがいい。
 - 「中央区の協働推進の現状」のところで地域の現状について否定的な表現になっているのが気になった。もう少し言い方をまるくしたほうがよいのではないか。
 - 「現状と課題」では、何百年も同じように続いている地縁など、プラス面ももっと強調し、中央区の都心型協働社会のメリットをアピールするような要素が入ってもよいのではないか。
 - 町の形態が変わってきているから、町会も従来そのままではやっていけない。できれ

ば従来からの住民がNPOをつくってくれるといい。

- NPOがもっと成熟していくと、目の前にある地域の活動を、組織をつくり実施していくという形になっていく。さらに、力をつけると、ボランティアはNPOのもとで活動するようになる。アメリカではNPOのもとでやることがボランティア活動であり、ボランティアの9割がNPOのもとで活動している。
- その意味でも協働が重要だ。日本では、お役所の人はお役所、会社の人会社だが、欧米ではすべてがネットワークでつながっていて、NPOの人たちが政策のなかに入っている。

2 次回会議については、9月14日（月）15時から行われることとなった。